

南渡島地域リハビリテーション推進会議

【活動計画】

- ・総会 年1回
- ・運営会議 2ヶ月に1回（20年度 計6回を予定）
運営委員メンバー：医師 保健所保健師 ケアマネ PT OT 事務員 計10名
- ・研修会事業 後援1回 共催1回 主催1回
- ・タウンミーティング 函館地区 西部地区 森鹿部地区 七飯北斗地区
*ワーキングチームにて会議を実施中

【活動方針】

過去 援助金あった時期

目指すもの「リハビリテーションの量的質的不足の解消」

- ・研修会を通して、幅広い職種が集まる場を提供、サービス向上を図り、地域住民へ還元した
- ・函館地域で全国規模の講師を招くことができた
- ・研修会中心の運営は、会員・非会員の立場が明白だった
- ・今後の活動の見通しを怠っていた

現在 援助金打ち切りになり

- ・運営会議のメンバーを一新
- ・運営会議にて、推進会議の目標を模索
地域ネットワーク 地域サービスの充実 リハビリ相談体制 地域リハ理念の浸透
- ・目指すもの 地域リハビリテーション
「たとえ障がいがあっても、住み慣れた場所で、
いつまでも生き生きと暮らせる南渡島をみんなで作ること」
をキャッチフレーズに推進会議ができる・背中を押せる活動に取り組む。
- ・南渡島を四地区に分け、ワーキンググループを展開
地域ネットワークを構築に向けて、活動をバックアップしている。
- ・セラピストマップを思案中

【活動の問題点、困っている点】

- ・今後の活動が不明（なにを担うか意思統一が必要）
- ・活動資金の確保
- ・会員メリットのPR
- ・会員の確保（今後 会員が増えるのか、減っていくのか？）
- ・地域リハビリテーションの概念の浸透（戦略が不十分）
- ・地域での活動をする、と、会員と非会員の境がなくなる
- ・推進会議の名前が硬い（リハビリテーションの名前が邪魔）
- ・地域住民までの周知に至っていない
- ・運営会議委員がボランティア（運営委員は各職能団体の代表者であるだけ）
- ・指導者・統率者が不明（誰が担うべきか、）